
ぽーっとする

隠れsugar

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ぼーっとする

【コード】

N1634S

【作者名】

隠れsugar

【あらすじ】

ぼーっとする中学生の話

ゴールデンウィークもとうに過ぎ去り、そろそろ梅雨入りしようかという季節。

昨夜の天気予報士は「梅雨入りは今週末ごろ」と言っていたものの、どうやら今日は雨が降りそうだ。

どんよりと雲の広がる空を見上げながら、僕は月曜の学校へ向かう。

「おはよう」

どこから誰が声をかけてきたのか一瞬分からず、自分がぼんやりと考え事をしながら歩いてきたことに気づく。

「ああ、おはよう」

声の主が川崎さんであることを確認してから挨拶をかえす。

「ぼーっと歩いてたら危ないよ?」

そう指摘され、僕は彼女と初めて会った日のことを思い出した。

去年の秋ごろの話だ。

その日珍しく早起きした僕は、これといってすることがなかったのでもいつもより20分も早く家を出て学校へ向かった。

いつもならせかせかと歩き去る通学路だけれど、時間の余裕が心にも余裕を生み、僕は歩きながら昨日の小説のことを思い出していた。やっぱり推理ものもいいけど、時に趣向の違う作品を読んでみるのもいいな、とかそんなことだったと思う。

考え事をしながらぼんやり歩いていたら、突然腕を後ろに引っ張られた。

「え?」

と思って振りかえると、そこに女の子が立っていた。

その時の僕は、彼女が同級生であることに気付かなかった。

「信号見てた？」

「えーっと、……見てない」

「気をつけてないと危ないよ？」

ようやく、僕の意識は現実に戻ってきて、赤信号をそのまま渡ろうとしていたらしいということと、目の前の子が助けてくれたらしいという事実を認識した。

「あ、はい」

小学生の子をなだめるように言うも、身長差のせいで斜め下から声をかけることになっていて、それがなんだかおかしかった。

「何がおかしいのよ」

「え、あ、いや、なんでもないよ。助けてくれてありがとう」

「どういたしまして」

「あの、君、名前なんて言うの？」

「え？」

「いや名前……」

と言い直しかけるが、語尾は小さくなっていく。

彼女の目が怒りと悲しみに混じったものになっていたからだ。

「知らないの……？」

「……ごめん」

「あなたは、2年C組の山村カズキ君でしょ」

「うん、そうだけど」

「私はB組の川崎リナ」

「川崎さん……」

誰だっけ？

「ほんとに覚えてないの？」

「……ごめんなさい」

「去年E組で同じクラスだったじゃない」

「ごめん。ほんとに覚えてなかった。」

去年の僕はあまり人と関わりを持とうとしなかったから。

「えーひどい」

「川崎さんはいつもこの時間に登校してるの？」

「うん。だいたいこのくらいの時間。カズキ君は？」

「今日はたまたま早く家を出た。いつもはホームルームぎりぎりくらい」

「へー。じゃあ明日からはこの時間に登校することね」

「え？」

「私と一緒に登校できるでしょ。……ってね。冗談よ」

しばらく他愛のない話をするうちに学校へ着く。

そして次の日、僕は昨日と同じ時間に家を出た。

別に彼女に強制させられたわけではない。

ただ、なんとなく

彼女と一緒に登校するのも悪くないかなと思ったただけだ。

「おーい。聞こえますかー」

耳元で突然叫ばれて我に返る。

「また、ぼーっとしてた。人と一緒にいるときくらい、その人との会話を楽しみなさいよ」

「はーい」

去年中2だったってことはつまり、半年ちょっと先にはもう受験が待ってるってこと。

そのままに...

(後書き)

30分でつくった。
後悔はしていない。

最後の1文の続きはご想像にお任せします。

技術力が許せば続き書きたいな…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1634s/>

ばーっとする

2011年10月7日05時32分発行